

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091800070		
法人名	社会福祉法人 全和会		
事業所名	グループホーム 鯉田		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市鯉田柳ヶ谷1522-1		(電話) 0948-28-0032
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価確定日	平成22年3月26日

【情報提供票より】(平成21年12月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建て		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(5年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 960 円		一月 28,800 円	

(4) 利用者の概要 (12月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広瀬医院・ひまわり歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人全和会が運営する「グループホーム鯉田」は、飯塚市郊外の国道200号線バイパス沿いに位置しており、木造平屋バリアフリーのホームである。吹き抜けのある、明るく開放的なリビングは清潔感があり、余裕ある生活空間の中で、明るく、楽しく笑顔の絶えない日々の暮らしとなるよう環境づくりが行なわれている。法人として飯塚市内で3箇所のグループホームを運営しており、1泊旅行や行事を合同で企画する等、充実した連携体制がある。また経験豊富な職員が確保され、離職も少なく、働きやすい職場環境づくりの成果とも言える。家族の来訪も多く、これまでの馴染みの関係(友人・知人・行きつけの店等)の継続を支援しながら、共に支えあう関係づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として、外部研修参加機会の確保と、同業者のネットワークづくりがあり、継続しての課題となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で検討し、意識の共有を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、半年毎に市町村へ報告を行なっている。ホーム運営状況の報告に留まらず、積極的な意見交換の場として活用されており、有意義な開催となっている。地域やホームの行事案内、防犯活動・災害対策等、地域と密着した会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	日頃より家族との会話の機会を大切にしており、話しやすい環境作りを心掛けている。意見や要望があった場合には、どんな些細なことでも毎朝の申し送りで確認し、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事の案内等を受けており、出来る限り参加している。入居者の方々は近隣の方々が多く、家族の来訪も多く、ホーム行事へ参加してもらっている。馴染みの知人の方達も気軽に来訪し、日常的な交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとしての役割りを明確に示した独自の理念がつけられている。具体的な表現を用い、笑顔の絶えないグループホーム鯉田としての方向性を示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念や方針については職員間で検討し、それぞれの思いを統合した実現可能な内容となっているので、全員が日々の実践に活かしている。また、外部の方にも理解して頂くため、玄関や食堂に掲示している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入し、地域行事の案内等を受けており、出来る限り参加している。入居者の方々は近隣の方々が多いため家族の来訪も多く、ホーム行事へ参加してもらっている。馴染みの知人の方達も気軽に来訪し、日常的な交流が図られている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は職員全員で検討し、意識の共有を図っている。外部評価の結果も全員へ配布し、今までのケアの振り返りに活かすことで、サービスの質の向上を目指し改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、半年毎に市町村へ報告を行なっている。ホーム運営状況の報告に留まらず、積極的な意見交換の場として活用されており、有意義な開催となっている。地域やホームの行事案内、防犯活動・災害対策等、地域と密着した会議となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センター職員との連携を密に取り、施設運営についての助言を頂いている。入居者の生活支援で公的機関の活用が必要な場合は、行政担当者と協力して取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業を活用している方がおり、その支援の過程において学ぶ機会もあるが、職員全員の理解を深めていくためにも、学習の機会を確保し、必要に応じて対応できる体制作りに取り組む意向がある。		権利擁護に関する制度について、必要となった場合に活用に向けての支援が行えるよう、また、家族や地域に向けての情報発信が行なえるように、職員が学ぶ機会をもてるよう取り組んで行くことが求められる。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪が多く、その都度、生活状況の説明や金銭管理についての報告を行なっている。特に健康状態については、医師の診察状況と共に説明している。遠方の家族へは電話や手紙等、定期的な報告を行なっている。3ヶ月に1回程度、ホーム便り「鯉田号」を発行し、写真やコメントで生活状況を知らせている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	日頃より家族との会話の機会を大切にしており、話しやすい環境作りを心掛けている。意見や要望があった場合には、どんな些細なことでも毎朝の申し送りで確認し、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内での異動が行なわれる事もあるが、最小限としている。離職者は少なく、入居者との馴染みの関係が保たれ、安定したサービス提供に努めている。管理者として職員との対話を大切に、今後もこの状況が維持出来るよう取り組む意向である。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、福祉職員としての基本姿勢や人柄を重視しており、年齢や性別による排除は行なっていない。定年制はあるが、本人の意欲があれば継続して勤めてもらっている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育に関する内部研修の充実に取り組んでおり、倫理規定や高齢者虐待防止・身体拘束等について学ぶ場を設けている。認知症ケアについての理解についても研修計画に盛り込んでおり、不参加者には伝達研修を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	内部研修については勤務者が多い昼食後に実施し、参加出来なかった職員へは研修資料を渡し、疑問質問があれば説明している。また、日頃のケアの中での気付きについては、職員全員で話し合う機会を持ち、方向性を確認している。		サービス向上に向けて、また職員が向上心を持って取り組めるよう、多様な職員育成への取り組みについて検討して欲しい。内部研修への充実した取り組みがあり、今後は外部研修等への積極的な参加に期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	現在、地域の同業者との交流はないが、法人内での研修会や行事等で相互交流があり、お互いの業務の利点や工夫が共有出来、サービス向上に繋げている。		これまでの実績を活かしていくためにも、他法人とのネットワークづくりに取り組み、サービス向上や職員育成につなげて欲しい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族との面談により、状況や要望の把握に努め、必要となる支援について話し合っている。ホームの見学や体験利用を実施し、入居者や職員と話をしたりその場の雰囲気を感じてもらい、安心して納得して入居できるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの力を充分発揮でき、また自己表現が出しやすい雰囲気づくりに努めている。季節毎に収穫を楽しむ野菜作り等において、ともに喜びを分かち合っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	その人らしさを大切にしたいケアを行うために、日頃より本人との時間を大切にすることで、希望や要望を把握するように努めている。そのためには家族の協力も重要であるので来訪時やケアプラン説明時に、支援要望等聞くよう努力している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	アセスメントでは生活状況や生育歴、心身の状況等の把握に努め、ケア会議を職員全員で行い、本人・家族の要望第一に考え、必要あれば医師より助言を頂き、個別的なケア計画になるようにしている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	月1回のケア会議を行い、新たな要望や変化の確認を行っている。計画の見直しの必要があれば、直ちに現状に即した計画としている。特に変化がない場合でも、短期目標の設定期間に応じて担当者会議を行い、プランの共有を図っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	法人内の三箇所のグループホーム合同で、一泊旅行や行事を行っており、スケールメリットを活かした取り組みがある。家族との外食や馴染みの美容室へ同行する等、柔軟な対応が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。多くの方々が近医をかかりつけ医としており、往診による適切な支援が受けられ安心した生活が維持出来ている。日頃の健康管理もかかりつけ医の看護師と連携で支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に緊急時の対応等を説明し、同意を得ている。今後の方針として24時間の医療体制を確保し、重度化や終末期に向けた対応を課題として取り組みたいと考えている。本人・家族が安心して暮らしていけるよう、関係者間での具体的な方針の統一に向けて、今後の取り組みに期待したい。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの個性を尊重し、声かけや対応に配慮するよう努めている。排泄時の声かけ等についても、入居者の心の負担を受けとめ、さりげなく支援することを心掛けている。個人情報の取り扱いについては法令遵守に努め、本人・家族にも入居時に説明と同意を得ている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームとしての一日の業務の流れはあるが、その日の心身の状況や会話を通じて要望を把握し、業務優先にならないように柔軟に対応するようにしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	買い物は近くのスーパーに入居者の方々と出かけ、時としてホーム菜園の野菜を活用している。食事の準備や後片付けは出来る範囲で参加して貰っている。明るい食堂からは、広がりのある景色を眺める事ができ、会話も弾む中で楽しく食事している姿があった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回を基本としており、希望やタイミングにあわせて柔軟な対応に努めている。一人でゆっくり入りたい方、2人で入りたい方等自由であり、入浴後は皮膚の乾燥を防ぐためローションを塗布している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一日の生活の中で、洗濯物の整理・食事の準備や後片付け・菜園の草取り・玄関の掃除等、それぞれにあわせた力を発揮してもらっている。家族や知人の来訪を楽しみ、入居者同志の何気ない会話を楽しんでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日々の散歩や菜園の手入れ、食材の買い物やドライブ等に出掛けている。外食(ファミリーレストラン・回転寿司)を楽しんだり、百円ショップで買い物を楽しむこともあり、個々の希望にそって柔軟な支援が行われている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	施錠する事の弊害を理解しており、通常は鍵をかけないケアを実践しているが、ホーム前は交通量の多い道路であるため、状況によっては施錠する事もある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の災害訓練を実施しており、その内1回は消防署の指導を受け、夜間を想定した訓練としている。自治会長の協力により、地域への協力要請が行なわれている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	旬の食材を中心として、医療面での指導やチェックを受けながら、メニュー作りが行なわれている。個々の状態に応じた柔軟な支援が行われており、食事・水分摂取量を記録し、		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 鯉田

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	吹き抜けのある共用空間は明るく開放感があり、床暖房も設置される等、快適な暮らしへの配慮が行なわれている。ソファや畳スペースの配置により、団欒の場として、また一人でゆっくり過ごす場所として利用されている。季節にあわせた草花や、入居者手作りの作品が飾られており、清潔感のある和やかな空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居間はゆったりとした広さがあり、クローゼットや洗面がセットされている。ベッドあるいは和式の布団など、個人の状況やライフスタイルにあわせている。仏壇や使い慣れた家具、思い出の写真等が飾られており、安心して過ごせるよう配慮している。毎朝の掃除は入居者の方々とともにいき、窓を開放し換気を行なっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			